

令和6年9月 経営協議会（対面・オンライン併用）議事録

I. 日 時 令和6年9月19日（木） 14時00分～15時40分

II. 出席者 横手学長、岩田、香藤、河田、草開、黒木、塩尻、渋沢、島田、西堀、船橋、正宗、宮坂、森島、中谷、後藤、藤江、小澤、丸山、堀、岩崎、小林、伊藤、三木、大鳥、諏訪各委員

がががー 大井、山本各監事
(欠席者：錢谷委員)

※下線はオンライン出席者

III. 前回議事録について
原案のとおり承認された。

IV. 審議事項（◎学外委員、○学内委員）

1. 国立大学法人ガバナンス・コードへの適合状況等について

丸山理事から、国立大学法人ガバナンス・コードへの適合状況等について、資料に基づき説明があり、審議の結果、承認された。

2. 第4期中期計画における令和5年度自己点検・評価について

中谷理事から、第4期中期計画における令和5年度自己点検・評価について、資料に基づき説明があり、審議の結果、承認された。

V. 協議事項

1. 「千葉大学 DEIB (C-DEIB) 推進宣言 (案)」及び「千葉大学 DEIB (C-DEIB) 基本方針 (案)」について

後藤理事から、「千葉大学 DEIB (C-DEIB) 推進宣言 (案)」及び「千葉大学 DEIB (C-DEIB) 基本方針 (案)」について、資料に基づき説明があり、意見交換が行われた。主な意見は以下のとおり。

◎ 多様なバックグラウンドを持つ人々が活躍するためには、特に本格的なグローバル化を図っていく上で、外国人教員を受け入れる環境づくり等が非常に重要であり、推進宣言及び基本方針の英語版を作成したことは非常に良いことだと思う。ただ、「DEIB」という言葉は聞き慣れない言葉である。DEIBの推進にあたっては、大学の価値観に基づき、皆が実行可能なアクションプランを考えていくと、より実行しやすいのではないか。

◎ DEIB 宣言は素晴らしいと思うが、この宣言をいかに実行するかが非常に大事だと思う。偏見を持たずに、教員や学生等が一丸となって進めていただきたい。

◎ 千葉大学の女性教員比率は、非常に高く良いことだと思う。企業においては、女性管理職比率がなかなか上がらない状況だが、企業よりも大学の方が、女性が活躍できる素地があるのではないかと感じている。しかし、日本の大学は女性の学長が少なく、大学において本当の意味で男女共同参画を実行するためには、女性の学長を多くするといった方向性が必要だと思う。

- ◎ 企業の立場で参考までに当社の取り組みを紹介させていただくと、ダイバーシティとインクルージョンに関しては、ある程度トップの方針は必要であるが、具体的に進めていく上で、目の前の課題に対して問題意識を持つスタッフが集まり、ダイバーシティ委員会で具体的な方策を議論するかたちをとっている。また、エクイティに関して、定期的に外部の方による全社研修を行っている。さらに、大学においてのビロギングは、企業においてはロイヤリティにあたり、年一回全社員に対して仕事のやりがい調査を実施し、その結果、抽出された課題に対策を講じ、経年変化を追っている。

2. 教育学部附属幼稚園の現状と今後について

藤川教育学部長から、教育学部附属幼稚園の現状と今後について、資料に基づき説明があり、意見交換が行われた。

主な意見は以下のとおり。

- ◎ 附属幼稚園の敷地面積はどのくらいか。また、附属幼稚園の定員及び定員の充足率がここ数年どのように経緯しているのか教えていただきたい。
- 28名のクラスが5つあり、全体で140名の定員となっている。
また、定員はすべて充足しており、国立の附属幼稚園は全国的に定員割れが多いなかで、当園は定員充足率100%を保っている。例年、定員を超える応募があり、選考している状況のため、定員充足率について今後も引き続き問題ないと考えている。
- 敷地面積は、9,300平方メートルである。
- ◎ 敷地について、今後の千葉大学及び教育学部の将来を考え、現附属幼稚園の場所を西千葉キャンパス内の別の場所に移転すること、及び本件の検討は、教育学部ではなく、大学法人として行っていただきたい。
- ◎ 幼児教育では、単に技術や知識ではなく、思いやり等の心や内面に関わる力を育むことが一番大事なことだと思う。そのような力が育まれることで、社会における対応力あるいは免疫力といったものが自然と育まれるのではないか。
- 幼児教育では非認知能力を育成することが非常に重要であり、そのような力を育む幼児教育の投資効果が高いことが、様々な研究から明らかになっている。非認知能力というのは、技術や知識以外の能力であり、例えば、自己制御力、共感力、社交性や協調性等の力といったものである。また、非認知能力を子供たち自身で工夫しながら、人と関わりつつ遊ぶなかで身に付けてもらうことが将来にわたって非常に豊かな人生を送ることにつながるということも研究で明らかになっている。本学においても、非認知能力を育む幼児教育を進めていきながら、そのような教育ができる指導者を育成していきたいと考えている。

3. 医師の働き方改革について

黒木委員から、医師の働き方改革について、資料に基づき説明があり、意見交換が行われた。

主な意見は以下のとおり。

- 救急科、産婦人科、小児科は完全に交代制で勤務している。診療科によりマンパワーの差が非常に大きいため、マンパワーがある診療科は交代制にできる可能性があるが、

医師が少ない診療科は交代制を実施するには難しい点がある。

VI. 報告事項

1. 数理・データサイエンス・A I 教育プログラム（応用基礎レベル）プラスの選定等について
小澤理事から、数理・データサイエンス・A I 教育プログラム（応用基礎レベル）プラスの選定等について、資料に基づき報告があった。
2. 医学部附属病院の運営状況について
大鳥副学長から、医学部附属病院の運営状況について、資料に基づき報告があった。

以 上